

社会福祉法人さぽうと21
平成 22 年度(2010 年度)事業報告書

— 2011 年 5 月 31 日 承認 —

< 目次 >

平成 22 年度 事業報告 p.1 ~ p.8

平成 22 年度 決算報告 p.9 ~ p.12

平成 22 年度 監査報告 p.13 ~ p.14

社会福祉法人 さぼうと21 平成 22 年度（2010 年度）事業報告

3 月 11 日に発生した東日本大震災、並びにそれに伴う福島原子力発電所の事故に際し、帰るべき祖国のある外国出身者が次々と日本を去りました。しかし、さぼうと 2 1 の支援対象である難民等の外国出身者の多くは、行き場もなく、錯綜する情報に心細く、不安な思いを抱いておられました。

そうした不安を少しでも軽減できるよう、放射能に関する講演会の実施や、インターネット上での情報提供などに努めております。

またそうした外国出身者への支援活動と付随し、さぼうと 2 1 では、姉妹団体である認定 NPO 法人難民を助ける会と協力し、チャリティコンサート他、別紙のとおり、震災直後より緊急・復興支援活動を行っております。

こうした活動を単独で行うことは、人手の確保や財政面からも大変な困難が予想されましたが、この度の活動主旨にご賛同頂いた方々からの多大なるお力添えのもと、実現することが出来ました。重ねて御礼申し上げます。

皆様からのご指導の下、今後もさぼうと 2 1 では、定住外国出身者の方々への支援をはじめ、この度の震災の被害に受けられた方々の力になれるよう努めてまいります。

以下に平成 22 年度に実施した事業の概要を記します。

まず「生活支援プログラム」並びに「坪井一郎・仁子 学生支援プログラム」では、月々の支援金の支給に加え、年賀寄附金助成で「夏期研修会」を、日本遊技関連事業協会からの助成の一部で「支援生とのつどい」を実施いたしました。

同年代の学生だけでなく、難民を助ける会のスタッフや土曜日の学習支援室でボランティア講師をされている社会人の方々にもご参加いただき、今後進学や就労など進路選択を迎える支援生に助言をしていただくことが出来ました。

次に学習支援室では、震災直後よりボランティア希望者が急増し、これまで講師不足のため待機していた方々にも、新たに学ぶ機会が提供出来るようになりました。

通学生の中には、在住期間が十数年に及ぶ方もおり、就職や子育ての問題、それらに付随して生じてくる帰化申請に関する相談など、来日直後とは異なる相談も、多く寄せられました。こうした事情を省みて、行政の就労支援に関する講習会を行ったり、相談室の設置を検討したりするなど、通学生の現状に沿った支援を心がけました。

最後に相談支援事業では、相談を寄せる外国出身者の方々の国民性や、抱える思いをより深く汲み取るために、相談希望者の出身国にて支援活動を行っている難民を助ける会のスタッフを講師に迎え、事務局員対象の勉強会を行いました。

以下に、各事業の活動内容を報告いたします。

(I) 生活困窮者に対する生活援助事業

(1) 生活支援プログラム

① 生活支援金の支給

高校や大学、専門学校に在籍するインドシナ難民や条約難民、中国帰国者の子弟等で、経済的事情により就学困難な者を対象に、1年間生活支援金を支給した。

■ 2010 年度生活支援生 総数：40 名

(1名は、大学での留学が決定したため、8月をもって支援中止となった)

■ 支援金総額：5,020,000 円／年

■ 1 人あたり：5,000 円 ～ 30,000 円／月

国籍	人数	学年
ベトナム	23名	■高校14名 ■専門2名 ■大学7名
ラオス	3名	■高校2名 ■大学1名
ミャンマー (ビルマ)	3名	■高校2名 ■大学1名 ※大学の1名は支援中止
カンボジア	3名	■高校2名 ■大学1名
中国	3名	■大学3名
イラン	1名	■大学1名
日本 元ベトナム：3名 元アフガニスタン：1名	4名	■高校3名 ■大学1名

(順不同)

② 生活支援生への対応

a) 面談

夏期研修会にて卒業後の進路や家庭生活、学校生活に関する個別面談を行った。
また研修会に不参加だった学生で、面談対応が必要と思われる学生には、電話や事務所にて別途面談を行った。

b) 支援金振込み確認葉書によるサポート

支援金を振り込む際のお知らせの手紙と併せて、振込み確認葉書を送付した。
葉書にある支援生からの近況報告に対し、事務局より一言コメントを寄せるなどし、日々顔を合わせる事のない支援生との関係づくりに努めた。

c) エッセイの提出

■ テーマ：外国にルーツをもつ私たちの過去・現在・未来

■ 字数：800 字程度

外国につながりがあることで悩んだことや、日本人社会に理解して欲しいこと、について書いてもらった。

また外国出身の親や、同郷コミュニティの中で育った支援生が、自身のルーツについて互いにどの様に感じているか知るため、エッセイ集を作成し配布した。

d) 就職支度金の支給（後述）

(2) 坪井一郎・仁子 学生支援プログラム(通称:坪井基金)

① 生活支援金の支給

大学3年生から大学院までに在籍するインドシナ難民、条約難民、中国帰国者、日系人などの子弟を対象に、学業推進のための生活支援金を支給した。

支援金の支給は、毎月1回、銀行振込にて行った。

■2010年度坪井基金支援生 総数：8名

■支援金総額：4,320,000円／年

■1人あたり：40,000円～60,000円／月

国籍	人数	学年
ベトナム	3名	■大学2名 ■大学院1名
中国	2名	■大学院2名
ブラジル	1名	■大学1名
イラン	1名	■大学院1名
日本	1名	■大学院1名

(順不同)

② 坪井支援生への対応

a) 支援金振込み確認葉書によるサポート

生活支援プログラムと同じ要領で、支援金を振り込む際、「支援金振込みのお知らせ」と「振込み確認の葉書」を送付し、手書きのメッセージのやり取りを行った。

b) エッセイの提出

c) にあがる「支援生とのつどい」での研究内容に関する発表者を選定するため、また坪井基金支援生としての学業の成果を知るため、エッセイの提出を義務付けた。

■エッセイのテーマ：私の研究

■字数：1500～2000字程度

c) 「さぼうと21支援生とのつどい」の実施(※平成22年度日本遊技関連事業協会助成)

代表の支援生による研究報告に加え、現在社会人として活躍している支援生OBや生活支援生、学習支援室で学ぶ通学生、会員・寄付者、一般の学生や社会人を招き、外国にルーツをもつことで感じる自身の強みや弱み、支えとなった経験について共有できる時間を設けた。

日時	場所	参加者数
12月23日(木) 13:30~16:00	さぽうと21事務所横 会議スペース	78名 一般39名、坪井支援生7名(1名欠席) 支援生0B6名、生活支援生4名、さぽうと 21役員12名、スタッフ6名、難民を助 ける会スタッフ4名
プログラム		
■ 第1部 ■	2010年度支援生による研究報告 テーマ:『私の研究』	
■ 第2部 ■	体験共有 テーマ:『今があるのは・・・』	
■ 第3部 ■	交流会、学習支援室ボランティア講師および通学生による合唱	

d) 就職支度金の支給

就職が決定した支援生に対し、就職支度金を支給しました。

■支給総額: 160,000円

■支給金額: 20,000円/人

■対象者数: 8名 (坪井基金支援生3名、生活支援生5名)

(3) 緊急経済支援

■支給件数: 1件 (ミャンマー(ビルマ)国籍、難民、男性、支給金額: 50,000円)

■貸付件数: 0件

【経緯】

毎週土曜日の学習支援室の通学生(4月より大学生)の居住するアパートの他階から出火し、叔父一家共々罹災した。

本人との面談を通じて、行政機関からの補助だけでは、新生活に向けての準備が進められないとわかり、金銭の支給を行った。

(4) 緊急募金

緊急経済支援を行った通学生と、その叔父家族の様子について、その後も本人と面談を重ねたところ、緊急支援金や家族の収入だけでは、生活再建の目処が立たないことが分かった。そこで会員・寄付者に向けて緊急募金を呼びかけ、ご本人とも相談の上、アパート契約料等に充てられるよう、50万円をお渡しすることとした。

残金については、緊急支援への備えとし、例えば被災地の方々への緊急支援に有効に活用していくことも検討されている。

(5) 学習支援室

a) 日本語教室、パソコン教室、学校教科補習教室

(※平成22年度 東京都在住外国人支援事業助成)

外国出身者が、単に「必要最低限の日本語力を習得すること」だけを目指すのではなく、自立を後押しし、社会参加の道を開いていくことを目的として教室を運営した。

■実施日時：毎週土曜日 10：00～18：00

(必要性があると判断された場合、平日にも授業を実施した)

■実施場所：さぼうと21事務所横会議スペース並びに難民を助ける会事務所

■受益者数：2,048名(延べ)

■登録ボランティア講師数：50名程度

■登録通学生数：50名程度

b) 通学生の学習意欲向上のための行事

① 学習発表会

10月16日の国連大学での外部向け学習発表会に先だて、内部発表会を行った。

■日時：9月4日(土) 13：30～16：30

■場所：社会福祉法人さぼうと21事務所横会議スペース

■出席者：計69名(通学生37名、その他32名)

② 書き初め展

年明けに開始した書初めを1月から2月にかけて事務所内に展示した。

③ 日本生活事情講座 (※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成)

日時・場所	参加者	講師
i) 緊急人材育成支援事業説明会		
12月10日(金) 15：00～17：00 さぼうと21事務所横会議スペース	33名 通学生等 17名 スタッフ等 6名 外部関係者 10名	寺澤英邦 東京労働局職業安定部職業安定課人材育成支援係
ii) 「永住・帰化申請」についての説明会		
2月12日(土) 11：00～13：00 さぼうと21事務所横会議スペース	通学生等 10名	高橋敬子 さぼうと21事務局長 東京都外国人相談室相談員
iii) 「確定申告」についての説明会		
3月5日(土) 11：00～12：00 さぼうと21事務所横会議スペース	通学生等 10名	國分浩太郎 さぼうと21ボランティア・行政書士 矢崎理恵 さぼうと21学習支援室コーディネーター

④ 出張朗読ライブ

ラジオ日本より「出張朗読ライブ」の共同実施のご提案があり「音に注目」して「日本語に慣れ親しむ」という趣旨のもと実施した。

■実施日：2月12日（土）

■出演者：通学生トム、トゥン、チンカイ、観客約20名

■放送日：3月31日（木） 23:30～0:00 1422kHz

⑤ クラス授業の開始

通学希望者の増加に対応するため、4月3日より、土曜日にクラス授業を開始。参加人数は5名で、講師は普段も日本語教師をしているボランティア3名が担当。

■初級前半（通称初級Ⅰ）クラス：担当 荒川 宣子 16:00～18:00

■初級後半（通称初級Ⅱ）クラス：担当 中山はる子 10:00～12:00

■初中 級（通称中級Ⅰ）クラス：担当 早福 泰子 10:00～12:00

⑥ 文集作成

学習支援室では、2冊の冊子を作成した。

i) 学習発表会記録冊子（※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成）

10月16日の国連大学での学習発表会の模様を文章化した報告冊子。

ii) 『「2011年3月11日」さぼうと21の学習支援室で学ぶ私たちは・・・』

（※平成22年度 東京都在住外国人支援事業助成）

3月11日に都内在住の彼らが、どのような状況で、どのような思いで、大きな災害に向かっていたのかという記録を文集の形で残すこととした。

c) ボランティア講師の資質の向上（※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成）

① 日本語ボランティア研修（全6回）

研修名	日時	講師
i) 公開講演会・ボランティア活動と私	9月11日(土) 15:30～17:30	星野昌子 (NPO 日本国際ボランティアセンター特別顧問)
ii) 日本語支援 現場発 ひとつの方法 その1	10月9日(土) 15:30～17:30	林川玲子 (日本語教師・東京日本語ボランティアネットワーク事務局長)
iii) 日本語支援 現場発 ひとつの方法 その2	11月13日(土) 15:30～17:30	藤橋帥子 (日本語教師・日本大学日本語講座非常勤講師他)
iv) 日本語支援 現場発 ひとつの方法 その3	12月11日(土) 15:30～17:30	山形美保子 (日本語教師・朝日カルチャーセンター講師他)
v) 日本語支援 知っておきたい日本語文法	1月15日(土) 15:30～17:30	矢崎理恵 (日本語教師・学習支援室コーディネーター他)
vi) 日本語支援 漢字指導 ひとつの方法	1月15日(土) 15:30～17:30	河住有希子 (日本語教師・早稲田大学非常勤講師他)

② ボランティア講師自主勉強会

日々現場で活動するボランティアが企画して実施した。

■研修名：「難民とは？ 第三国定住とは？」

■日 時：2010年12月4日(土) 17:00～19:00

■場 所：社会福祉法人さぽうと21事務所横会議スペース

■講 師：大原晋（財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部）

③ ボランティア講師顔合せ会・意見交換会

ボランティア同士が、抱える問題や課題について、意見を交換することができた。

■日 時：2011年1月22日(土) 11:30～13:30

■場 所：社会福祉法人さぽうと21事務所横会議スペース

■参加者数：41名（ボランティア34名、役員・スタッフ等7名）

(II) 生活困窮者に対する相談事業

■相談件数：83件

原則として、日曜祝日を除く午前10:00から午後6:00まで、電話、面談、Eメールで、相談を受け付けた。

日 時	2010年8月10日(火)～11日(水) 1泊2日
場 所	国立オリンピック青少年記念センター(渋谷区代々木)
参加者	57名(支援生31名、ボランティア18名、さぽうと21役員3名、スタッフ5名)
プログラム	
1日目	ワークショップ 講師:NPO法人コモンビート 韓 朱仙(ハン チュソン) 『仕事をとおして得られるものとは? 「人間力」を高めて社会の役に立とう～』
2日目	グループトーク会 『仕事としてしたいこと、またそれを選んだ理由』 社会研修 東京タワー見学

(III) その他

(1) 夏期研修会の実施 (※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成)

研修会では、仕事や進路について外国にルーツをもつ支援生と日本人ボランティアが共に語り合うことにより、双方が視野を広げることができた。

(2) さぽうと21学習発表会の実施 (※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成)

共生社会の実現に向けて、その現状と課題	
日 時	2010年10月16日(土) 13:30～16:00
会 場	国連大学 エリザベスローズ国際会議場
共 催	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
協 力	認定 NPO 法人難民を助ける会、早稲田大学大学院日本語教育研究科
参加者	168名

(3) 放射能についての多言語通訳付き緊急セミナーの実施

(※平成22年度 日本郵便年賀寄附金助成)

日本語の理解が不十分な、多くの定住外国出身者を対象に、母語で「地震」「原発」「放射能」についての知識や情報を得られる機会を設けた。

放射能って何？～ 地震と原発 etc きちんと教えて ～	
講師	岡本智博（軍事問題専門家）
日時	2010年3月26日(土) 12:00～14:00
会場	ネクストワークス・ラーニングセンター（品川区上大崎）
言語	ビルマ語、フランス語、スペイン語、英語
参加者	50名

(4) 広報活動

① ニュースレターの発行

広報誌「Support21 Newsletter」を年4回発行した。

■発行月：Vol. 41 / 6月、Vol. 42 / 9月、Vol. 43 / 12月、Vol. 44 / 3月

② ホームページの更新

さぼうと21主催の行事や支援生募集、またホームページを通しての緊急支援の呼びかけなど、随時更新を行った。

③ コンサートの開催

認定NPO法人「難民を助ける会」との共催で、下記の通りチャリティコンサートを開催。

i) 7月25日(日)：『加藤タキ・チャリティサロンコンサート』

ii) 9月1日(水)：『チャリティコンサート1+235本のトランペット大集合』

iii) 12月19日(日)：『加藤タキ・チャリティサロンコンサート』

(5) 理事会・評議員会

平成22年度は、下記の通り定例理事会・評議員会を2度、開催した。

■第1回定例評議員会：2010年5月25日(火) 10:00～11:00

第1回定例理事会：2010年5月25日(火) 11:00～12:00

■場所：社会福祉法人さぼうと21事務所横会議スペース

■第2回定例評議員会：2011年3月11日(金) 10:00～11:00

第2回定例理事会：2011年3月11日(金) 11:00～12:00

■場所：社会福祉法人さぼうと21事務所横会議スペース

以上

正味財産増減計算書

平成22年 4月 1日から平成23年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	
【増加原因の部】		
会 費 収 入		
正 会 員 会 費 収 入		1,295,000
補 助 金 等 収 入		
民 間 助 成 金 収 入		49,285
公 的 助 成 金 収 入		4,675,105
寄 付 金 収 入		
寄 付 金 収 入		17,604,421
資 産 受 贈 益 金		3,017,600
受 取 配 当 金		
受 取 配 当 金		10,000,000
雑 収 入		
受 取 利 息 入	1,202,553	
雑 収 入	68,871	1,271,424
合 計		37,912,835
【減少原因の部】		
事 業 費		
生 活 相 談 費		3,900,739
生 活 支 援 金		
生 活 支 援 支 出	5,697,320	
生 活 支 援 坪 井 プログラム	4,619,688	10,317,008
生 活 支 援 助 費		1,169,032
助 成 金 事 業 費		6,592,310
会 議 費		101,595
旅 費		108,820
福 利 交 通 費		5,000
通 信 運 生 費		624,051
書 籍 搬 費		12,930
減 価 償 却 費		184,275
消 耗 品 費		47,981
印 刷 製 本 費		457,501
諸 謝 金		0
保 険 料		0
支 払 手 数 料		233,280
雑 費		26,750
管 理 費		23,781,272
給 料 手 当 費		1,672,236
法 定 福 利 費		617,966
旅 費 交 通 費		960
福 利 交 通 費		0
諸 謝 金		111,111
通 信 運 搬 費		398,817
会 議 費		30,577
消 耗 什 器 備 品 費		186,395
事 務 所 賃 借 料		600,000
外 部 監 査 費		0
支 払 手 数 料		88,842
印 刷 機 費		445,756
雑 費		2,000
合 計		4,154,660
当 期 正 味 財 産 増 加 額		27,935,932
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		9,976,903
前 期 末 正 味 財 産 合 計 額		206,007,410
		215,984,313

収 支 計 算 書

平成22年4月1日から平成23年3月31日

(単位:円)

科 目	決 算 額	備 考
【 収 入 の 部 】		
会 費 収 入	1,295,000	
正 会 員 会 費 収 入	1,295,000	
補 助 金 等 収 入	4,724,390	
民 間 助 成 金 収 入	49,285	
公 的 助 成 金 収 入	4,675,105	
寄 附 金 収 入	20,604,421	
寄 附 金 受 贈 収 入	17,604,421	
資 産 受 贈 益	3,000,000	
受 取 配 当 金	10,000,000	
受 取 配 当 金	10,000,000	
雑 収 入	1,271,424	
受 取 利 息	1,202,553	
雑 収 入	68,871	
当 期 収 入 合 計 (A)	37,895,235	
当 期 繰 越 収 支 差 額	5,393,160	
収 入 合 計 (B)	43,288,395	
【 支 出 の 部 】		
事 業 費	23,596,997	
生 活 支 援 費	10,317,008	
生 活 相 談 費	3,900,739	
生 活 援 助 事 業 費	1,169,032	
助 成 金 事 業 費	6,592,310	
福 利 厚 生 費	5,000	
旅 費 交 通 費	108,820	
通 信 運 搬 費	624,051	
会 議 費	101,595	
消 耗 品 費	47,981	
印 刷 製 本 費	457,501	
ソ フ ト ウ エ ア 購 入 費	0	
書 籍 費	12,930	
諸 謝 金	0	
保 険 料	0	
会 費	0	
支 払 手 数 料	233,280	
雑 費	26,750	
管 理 費	4,154,660	
給 料 手 当	1,672,236	
法 定 福 利 費	617,966	
通 信 運 搬 費	398,817	
旅 費 交 通 費	960	
消 耗 品 費	186,395	
事 務 所 賃 借 料	600,000	
外 部 監 査 費	0	
諸 謝 金	111,111	
福 利 厚 生 費	0	
会 議 費	30,577	
印 刷 機 費	445,756	
租 税 公 課	0	
支 払 手 数 料	88,842	
雑 費	2,000	
予 備 費	0	
固 定 資 産 取 得 支 出	0	
什 器 備 品 購 入	0	
当 期 支 出 合 計 (C)	27,751,657	
当 期 収 支 差 額 (A - C)	10,143,578	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B - C)	15,536,738	

財 産 目 録

平成23年3月31日 現在

(単位:円)

科 目		金 額	
【資産の部】			
流	動 資 産		
現	現 金 手 許 有 高	168,190	
普	通 預 金		
	三井住友銀行目黒支店(3口座)	10,585,508	
	三菱東京UFJ銀行目黒支店	7,144	
	普通預金合計	10,592,652	
郵	便 振 替 口 座	4,789,189	
	現金預金計	15,550,031	
前	払 金		
	職 員 謝 金	84,280	
	流動資産合計		15,634,311
固	定 資 産		
基	本 財 産		
	その他の基本財産(国債)	100,000,000	
そ	の 他 の 固 定 資 産		
	長期保有目的有価証券(株券)	100,000,000	
	ソ フ ト ウ ェ ア	170,100	
	印 刷 機	259,875	
	土 地	17,600	
	その他の固定資産合計	100,447,575	
	固定資産合計		200,447,575
	資産合計		216,081,886
【負債の部】			
預	り 金		
源	泉 所 得 税	97,573	
	流動負債合計		97,573
	負債合計		97,573
【正味財産の部】			
正	味 財 産		215,984,313
(う ち 基 本 金)		(100,000,000)
(う ち 当 期 正 味 財 産 増 加 額)		9,976,903
負	債 及 び 正 味 財 産 合 計		216,081,886

平成 22 年度 監査報告

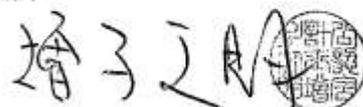
独立監査人のレビュー報告書

平成 23 年 5 月 14 日

社会福祉法人さぼうとにじゅういち
理 事 会 御 中

鳳友公認会計士共同事務所

公認会計士



当監査人は、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの委嘱に基づき、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの平成 22 年会計年度（平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで）における計算書類、すなわち、貸借対照表、収支計算書、財産目録及び正味財産増減計算書についてレビューを行った。これらの計算書類の作成責任は理事者にあり、当監査人の責任は、独立の立場から実施したレビューに基づき計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められるレビューの基準に準拠してレビューを行った。レビューの基準は、当監査人に計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの限定的な保証を得るため、レビューを計画し実施することを求めている。レビューは、主として理事者及び職員等への質問及び財務情報の分析的手続に限られ、したがって、監査に比較してより限定的な保証を与えるに過ぎない。当監査人は、監査を実施しておらず、したがって、監査意見を表明するものではない。

レビューの結果、上記の計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる社会福祉法人会計の基準に準拠して、社会福祉法人さぼうとにじゅういちの平成 22 年会計年度の収支の状況及び同会計年度末日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示していないと認められる事項は発見されなかった。

社会福祉法人さぼうとにじゅういちと当監査人との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

社会福祉法人 さぼうとにじゅういちの 2010 年度（平成 22 年度）の業務なら
びに財政に関する監査を実施した結果、公正かつ適正に事業が実施され、財政
が運営されているものと認め、ご報告申し上げます。

平成 23 年 5 月 23 日

社会福祉法人 さぼうとにじゅういち

監事

稲岡 稔 

稲岡 稔

監事

沼田 安弘 

沼田 安弘

監事

水上 洋一郎 

水上 洋一郎